

横須賀市教育アンケート報告書

（社会教育編）

平成29年（2017年）3月

横須賀市教育委員会

目次

I	調査目的及び実施方法等	1
II	集計結果	
1	基本的属性	
(1)	年齢	2
(2)	職業等	3
(3)	居住地区	4
2	生涯学習について	
(1)	生涯学習の経験	5
(2)	学習の内容	7
(3)	学習を行う理由	9
(4)	学習の方法	10
3	生涯学習施設	
(1)	生涯学習施設の利用度	14
(2)	生涯学習施設の実施事業の参加状況	16
4	社会的な課題	
(1)	社会的課題に対する市民の学習ニーズ	17
5	今後の課題	
(1)	学習成果の還元	19
(2)	行政が充実すべき事業	21
6	横須賀市教育振興基本計画について	
(1)	横須賀市教育振興基本計画の周知度	22
(2)	横須賀市教育振興基本計画の情報入手先	23
7	自由意見	24

I 調査目的及び実施方法等

1 調査目的

本調査は、市民が生涯学習や社会教育に対して何を望んでいるのか、また、どのような考えを持っているのかを把握し、生涯学習の推進を図り、横須賀市教育委員会が平成23年3月に策定した横須賀市教育振興基本計画（計画期間：平成23年度～平成33年度）における次期実施計画期間（平成30年度～平成33年度）の計画策定や今後の教育行政施策の参考とするために実施しました。

2 調査対象及び回収数

(1) 調査の対象

市民：住民基本台帳から抽出し、郵送にて配布・回収しました。

(2) 調査期間

平成28年（2016年）年10月中旬～12月上旬

(3) アンケート調査票の配布数と回収結果

対 象	配布数 (人) A	回収数 (人) B	回収率 (%) B/A
市 民	1,988	630	31.7

3 集計結果の表記方法

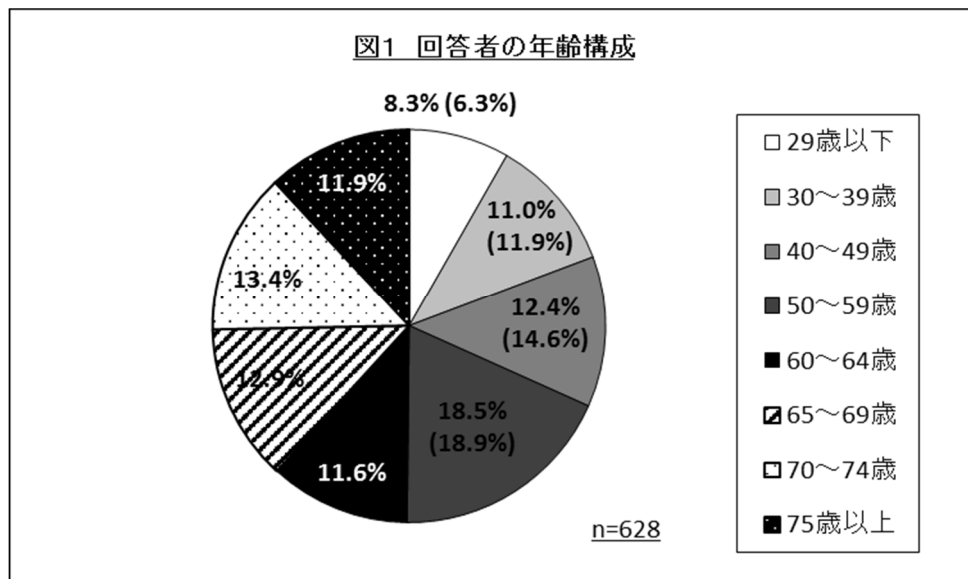
- (1) 「有効回答数 (n)」は回答資格者総数から未回答、無効を除いた数値です。
- (2) 「回答率 (%)」は、小数点以下第2位を四捨五入したため、各選択肢の割合の合計が100%にならない場合があります。
- (3) グラフの () 内に記載されている数字は、前回（平成24年実施）の調査結果です。

Ⅱ 集計結果

1 基本的属性

（1）年齢

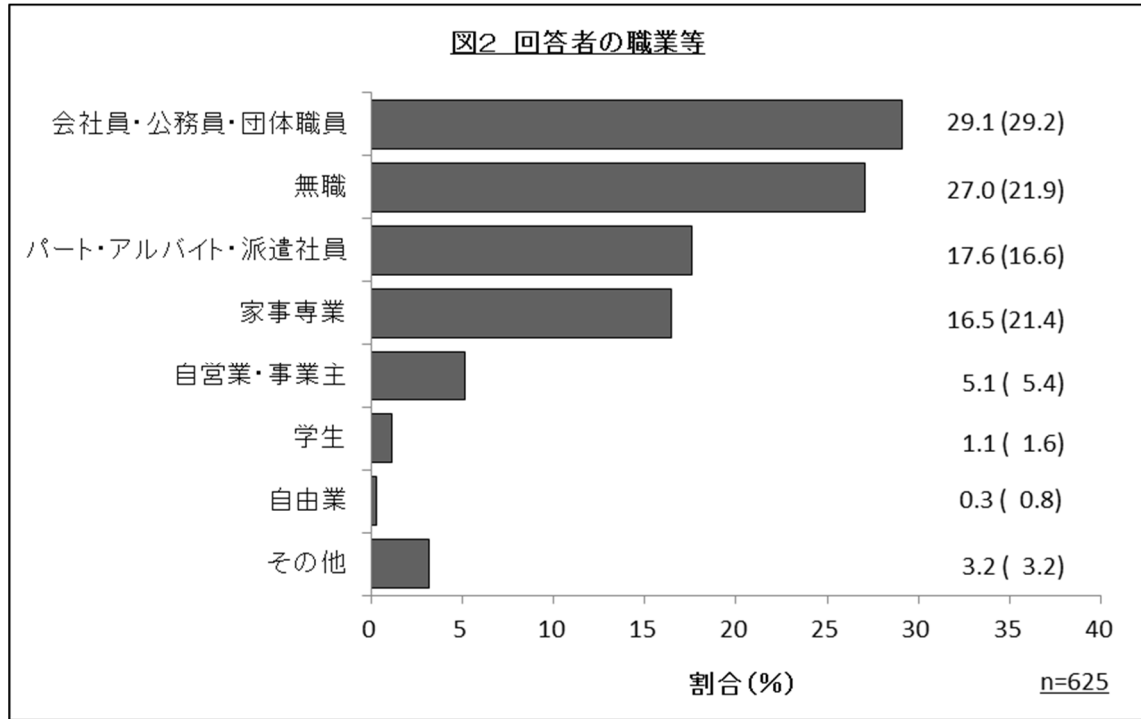
問1 あなたの現在の年齢は、次のどれに該当しますか。



回答者の年齢は、50～59歳の方の割合が18.5%と最も高く、60歳以上の方の割合が49.8%と全体の約半数を占めました。一方で、29歳以下が最も低く、8.3%でした。この傾向は前回（H25年度）と同様でした。

（2）職業等

問2 あなたの主たる職業などを教えてください。

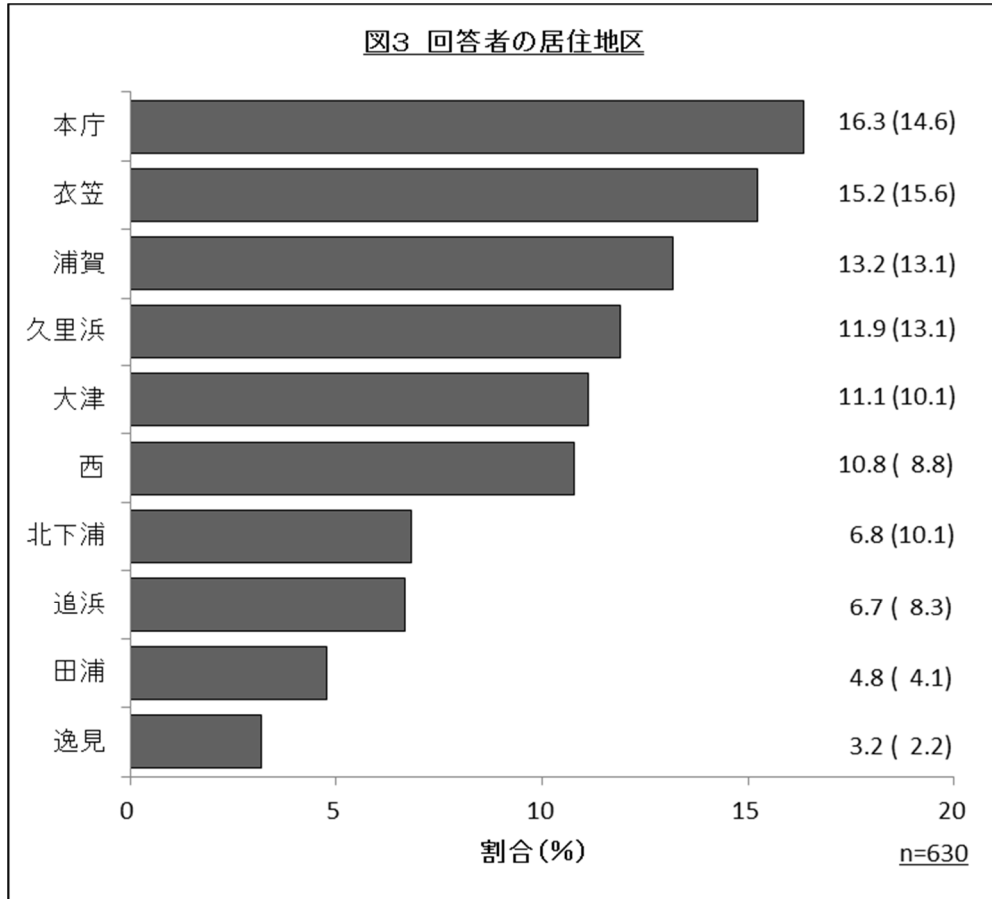


回答者の職業では、「会社員・公務員・団体職員」の割合が最も高く 29.1%でした。次いで、「無職」が 27.0%でした。これは、回答者のうち一度定年により仕事を退職された方が多いためと考えられます（図1参照）。

前回の結果と比較すると、前回は 21.4%で3位であった「家事専業」は今回 16.5%と 4.9%減少で4位であり、前回 16.6%で4位の「パート・アルバイト・派遣社員」は 17.6%と 1%増加で3位でした。前回と同様、上位4種の職業で全体の約9割を占めました。

（3）居住地区

問3 あなたは市内のどちらの地域にお住まいですか。



居住地別では、人口比にあわせて抽出したため、回答も概ね居住地区の人口比と対応していました*。

※：居住地区の人口比は以下のようになっています

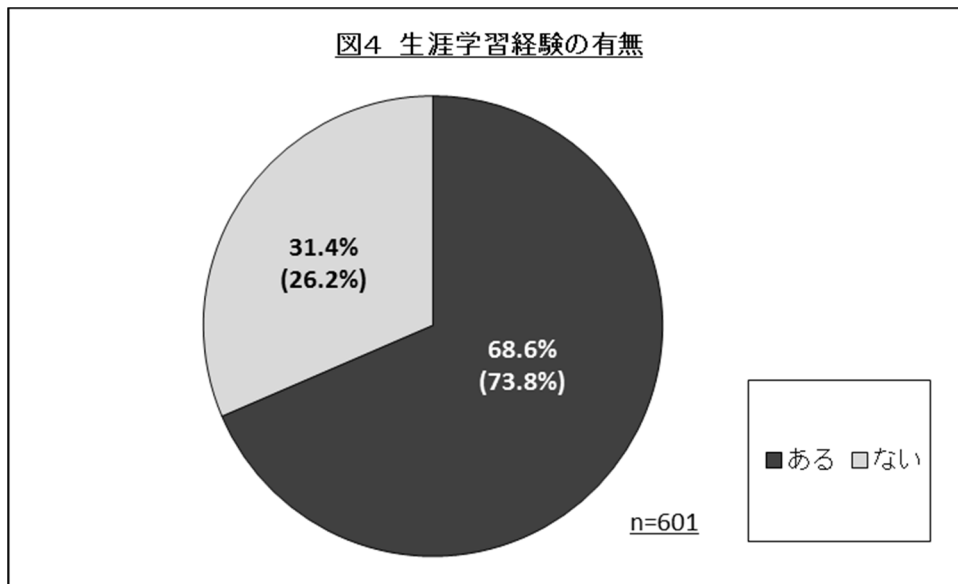
（「平成 28 年 10 月 1 日現在住民基本台帳登録人口」より）

本庁 15.7%、衣笠 15.1%、久里浜 13.1%、浦賀 11.6%、西 10.6%、大津 10.4%、北下浦 8.6%、追浜 7.7%、田浦 4.3%、逸見 2.8%

2 生涯学習について

(1) 生涯学習の経験

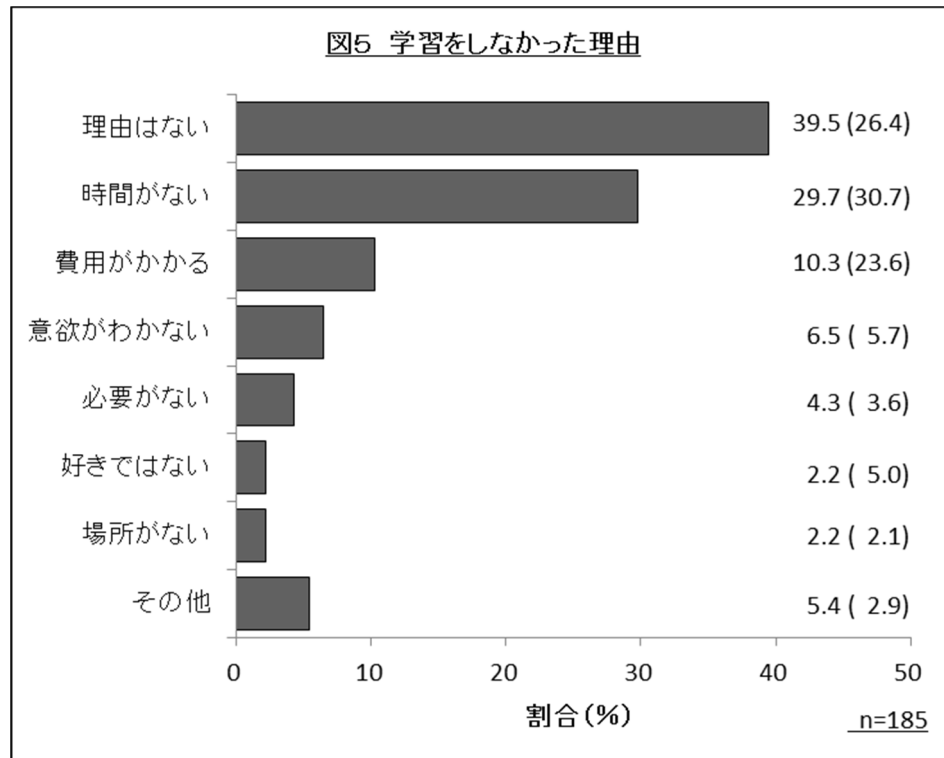
問4 あなたは、「生涯学習」として、何かを学習したことがありますか。
 （学習の内容は、教養・趣味・健康維持・資格取得・仕事関連・社会問題など、
 学習の方法も、講座や講演会参加・個人レッスン・教室通い・通信教育・本、
 テレビやインターネットなどで一人で学ぶなど、何でも可）



“生涯学習”として学習した経験の有無について、68.6%は「ある」と回答し、前回と比較すると5.2%減少しました。

行政として生涯学習の推進を図ってきたにも関わらず前回よりも生涯学習経験者が5.2%減少したことを受け、問題の改善を図りたいと思います。

問5 問4で「ない」を選ばれた方におたずねします。学習をしなかったのはなぜですか。（一つ選択）

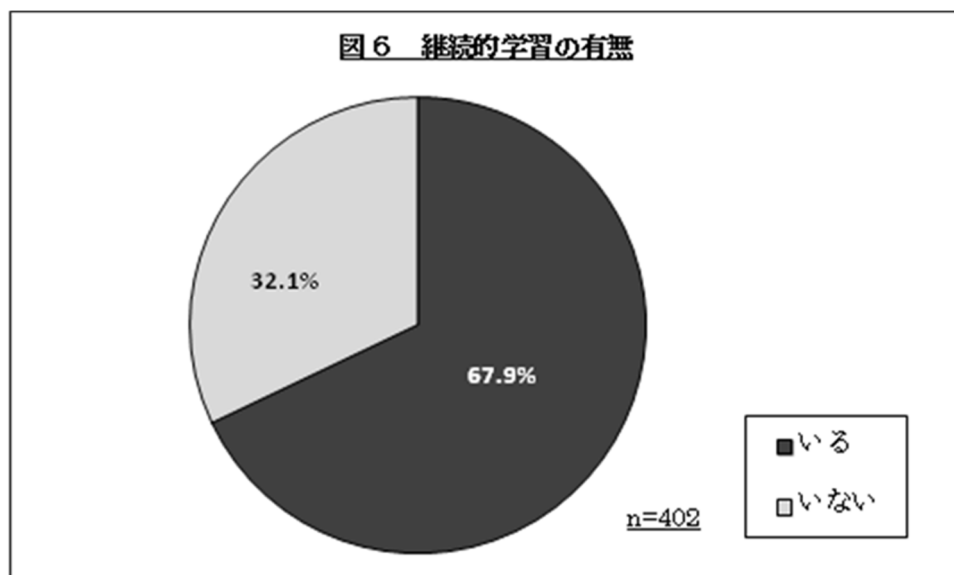


生涯学習の経験が無い理由としては、「特に理由はない」の割合が最も高く 39.5%、次いで「時間がない」が 29.7%、「費用がかかる」が 10.3%でした。

前回と比較すると、「特に理由はない」は前回2位であった 26.4%から 13.1%増加し、一方「時間がない」は前回1位の 30.7%から 1.0%減少しました。「費用がかかる」は前回同様3位でしたが、割合は 13.3%減少しました。これは、行政等による無料で参加できる“生涯学習”の浸透や前回アンケートの結果を踏まえて行った“学習活動は必ずしも費用がかかるものではない”といった啓発活動が功を奏した結果であると推測しています。

（2）学習の内容

問6 問4 で「ある」と答えた方におたずねします。引き続き学習に取り組んでいますか。

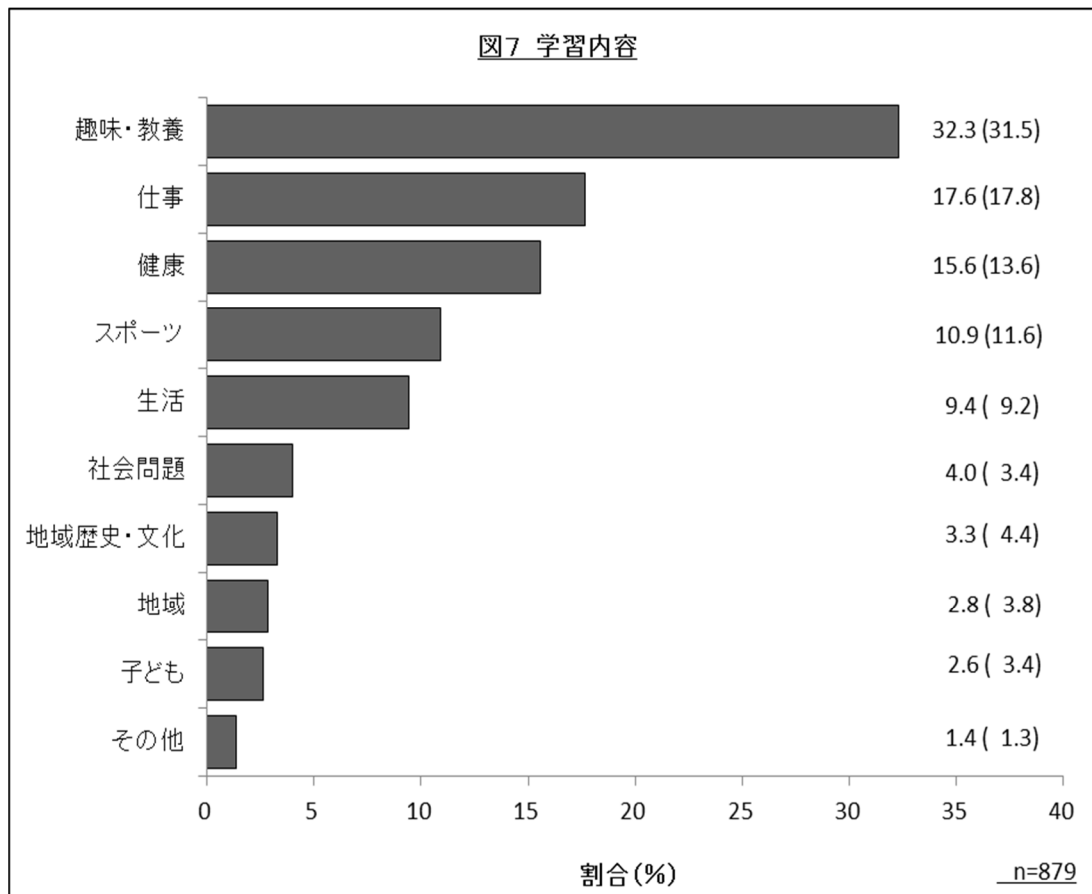


生涯学習を経験した方の中で、引き続き学習に取り組んでいる方は全体の67.9%であり、過半数を超えました。一方で、32.1%の方が継続的な学びへとつながっていないことも浮き彫りになりました。今後は、一度生涯学習に関わった方が 継続的に学ぶことのできる機会づくり、環境づくりが課題です。

問7 その学習内容はどのようなことですか。（三つまで選択）

※社会教育編では、総回答数に対する割合で示しています。

※グラフ上の項目は基本的に前年度とあわせて表示しています。

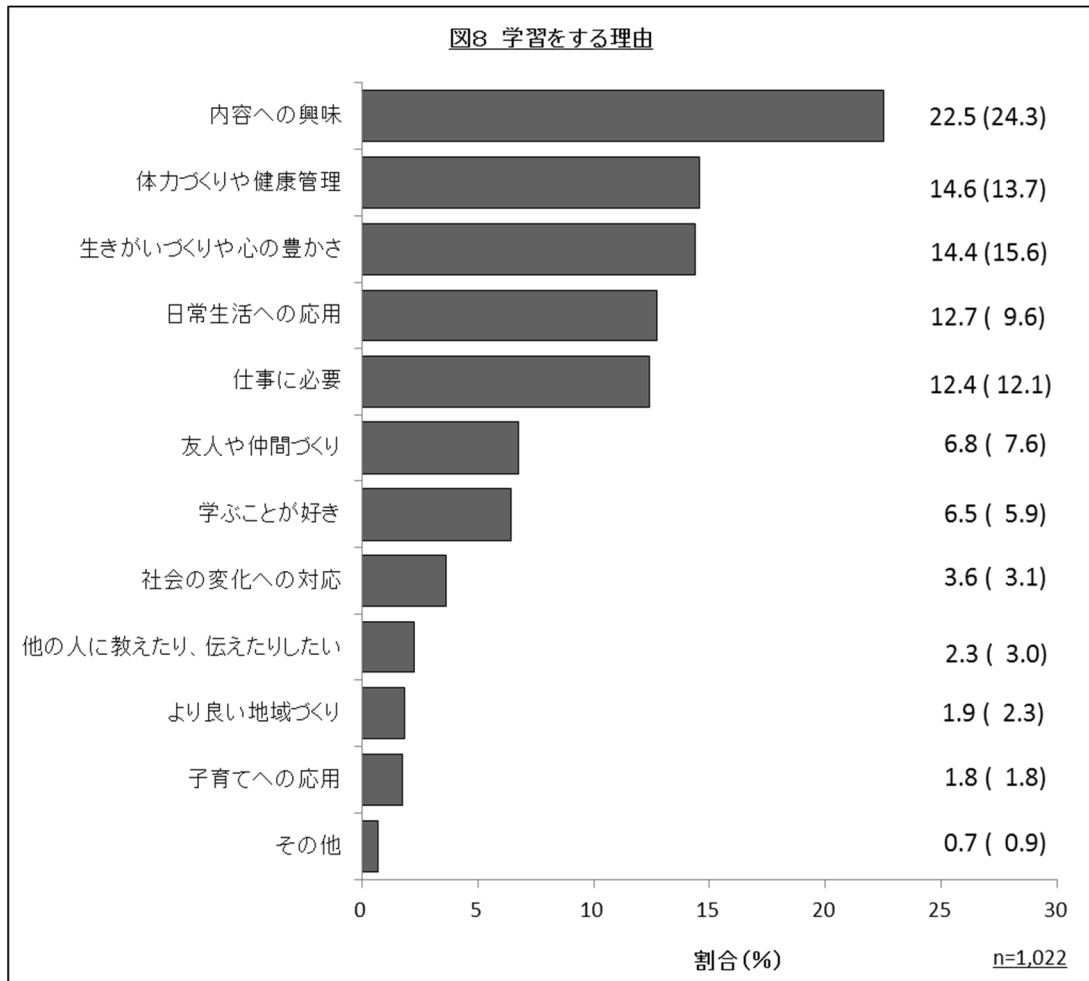


学習内容は、「趣味・教養に関すること（グラフ上では「趣味・教養」と表示）」の割合が 32.3%と最も高く、「仕事に必要な知識や技術など（グラフ上「仕事）」が 17.6%、「健康維持・健康増進に関すること（グラフ上「健康）」が 15.6%と続きました。

前回と比較すると、「健康維持・健康増進に関すること」の割合は 2.0%増加し、一方で「地域の歴史や文化に関すること（グラフ上「地域歴史・文化）」や「地域活動・地域の振興・まちづくりに関すること（グラフ上「地域）」はそれぞれ 1.1%、1.0%減少しました。このことより、個人の成長につながるような内容の学習を継続的に取り組んでいる方は多いものの、地域や社会といった他者とのつながりづくりに関する内容の学習を継続的に取り組んでいる方は少ないことが分かりました。

（3）学習を行う理由

問8 あなたが学習する理由は何ですか。（三つまで選択）

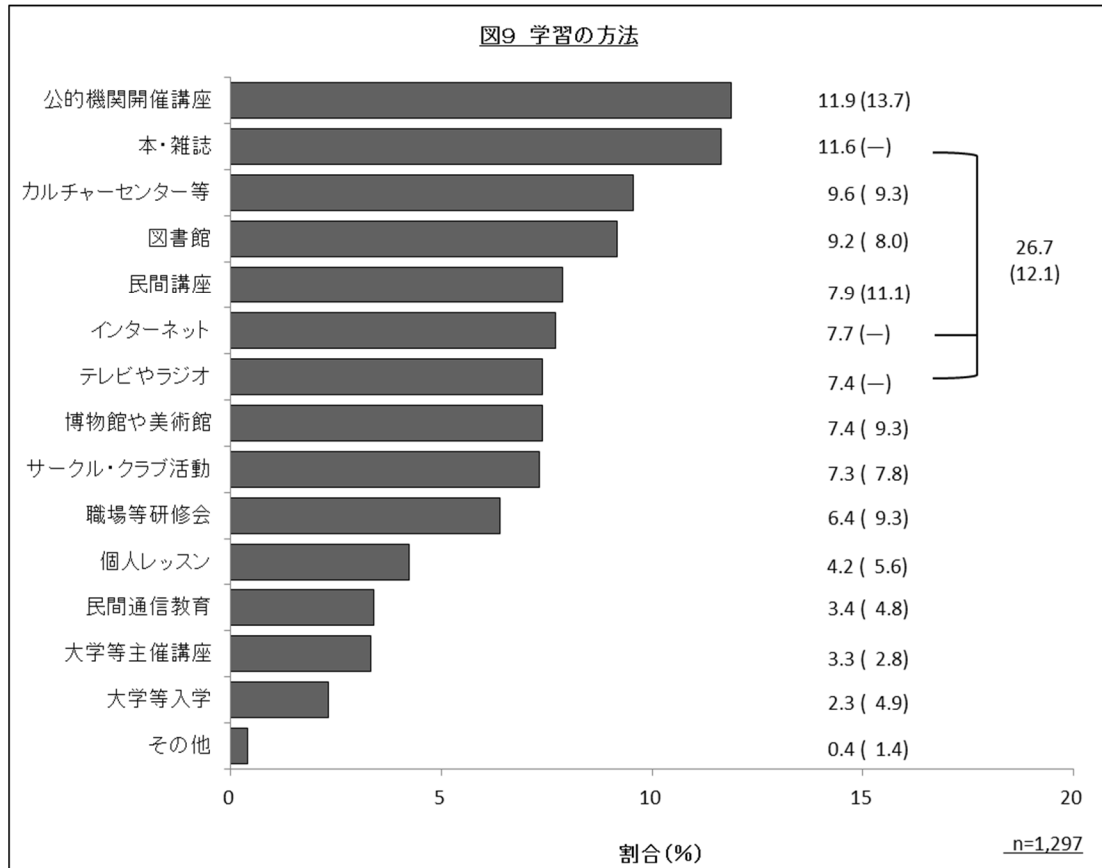


学習する理由は、「内容に興味があるから」の割合が最も高く 22.5%、「体力づくりや健康管理に役立つから」が 14.6%、「生きがいづくりや心を豊かにしたいから」が 14.4%、「日常生活に役立つから」が 12.7%と続きました。自分が興味を持ったものを学習するということは生涯学習の本質である“自主性”から考えると当然の結果ではありますが、生きがいづくり、健康管理、日常生活のためなど、問7同様にやはり自分の生活の質を良くして自身の成長につながるような理由が中心でした。

上位4項目は前回との差が大きく、中でも「日常生活に役立つから」は 3.1%増加しました。「体力づくりや健康管理に役立つ」は前回と比べて 0.9%増加し、問7でも増加がみられた「健康維持・健康増進」に関する学びを継続的に行った方々の理由として考えられます。前回注目した「地域をより良くしたい」と「友人や仲間を作りたい」はそれぞれ 0.4%、0.8%減少しました。

（４）学習の方法

問 9 あなたは、どのような方法で学習しましたか。（該当するものすべて選択）



学習方法については、「国・都道府県・市町村の機関や施設が主催した講座などに参加した（グラフ上では「公的機関開催講座」と表示）」方の割合が 11.9%と最も高く、「本・雑誌を利用して学習した（グラフ上「本・雑誌）」が 11.6%、「民間のカルチャーセンターや教室などで学習した（グラフ上「カルチャーセンター等）」が 9.6%と続きました。

前回と選択肢が異なるため単純比較はできませんが、今回の「本・雑誌を利用して学習した」「インターネットを利用して学習した（グラフ上「インターネット）」「テレビ・ラジオを利用して学習した（グラフ上「テレビやラジオ）」をまとめて前回同様「本やインターネット等利用」として比較すると全体に占める割合は 26.7%であり、前回の 12.1%と比べて 14.6%増加しました。加えて「図書館で本を読んだり、調べ物をした（グラフ上「図書館）」の割合が前回よりも 1.2%増加したことからも、自分が欲しい情報を自力で調べるといった学習方法を選択している方が増えたと考えられます。

本質問の項目を“個人的な学習”※¹と“集団的な学習”※²に大別して比較すると、

個人的な学習は全体の 51.0%を占め、前回の 39.8%よりも 11.2%増加しました。一方、集団的な学習は 48.7%であり、前回の 58.9%よりも 10.2%減少しました。

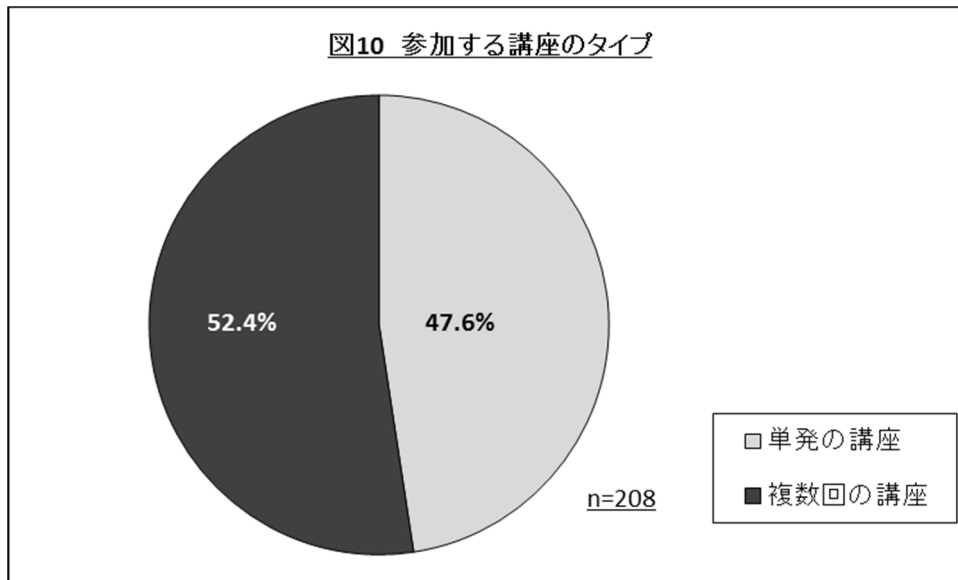
※1：「図書館で本を読んだり、調べ物をした」「博物館や美術館で展示品を見学した」「民間の通信教育で学習した」「専門家の個人レッスンを受けた」「本・インターネット等」の割合の合計値

※2：「国・都道府県・市町村の機関や施設が主催した講座等に参加した」「民間団体等が主催した講座などに参加した」「大学や各種学校等が主催した講座などに参加した」「職場などで実施した研修会に参加した」「大学や各種学校等に入学して学習した」「民間のカルチャーセンターや教室等で学習した」「自主的なサークル活動やクラブ活動に参加した」の割合の合計値

問10 （問9で1・2・3※を選ばれた方におたずねします。）

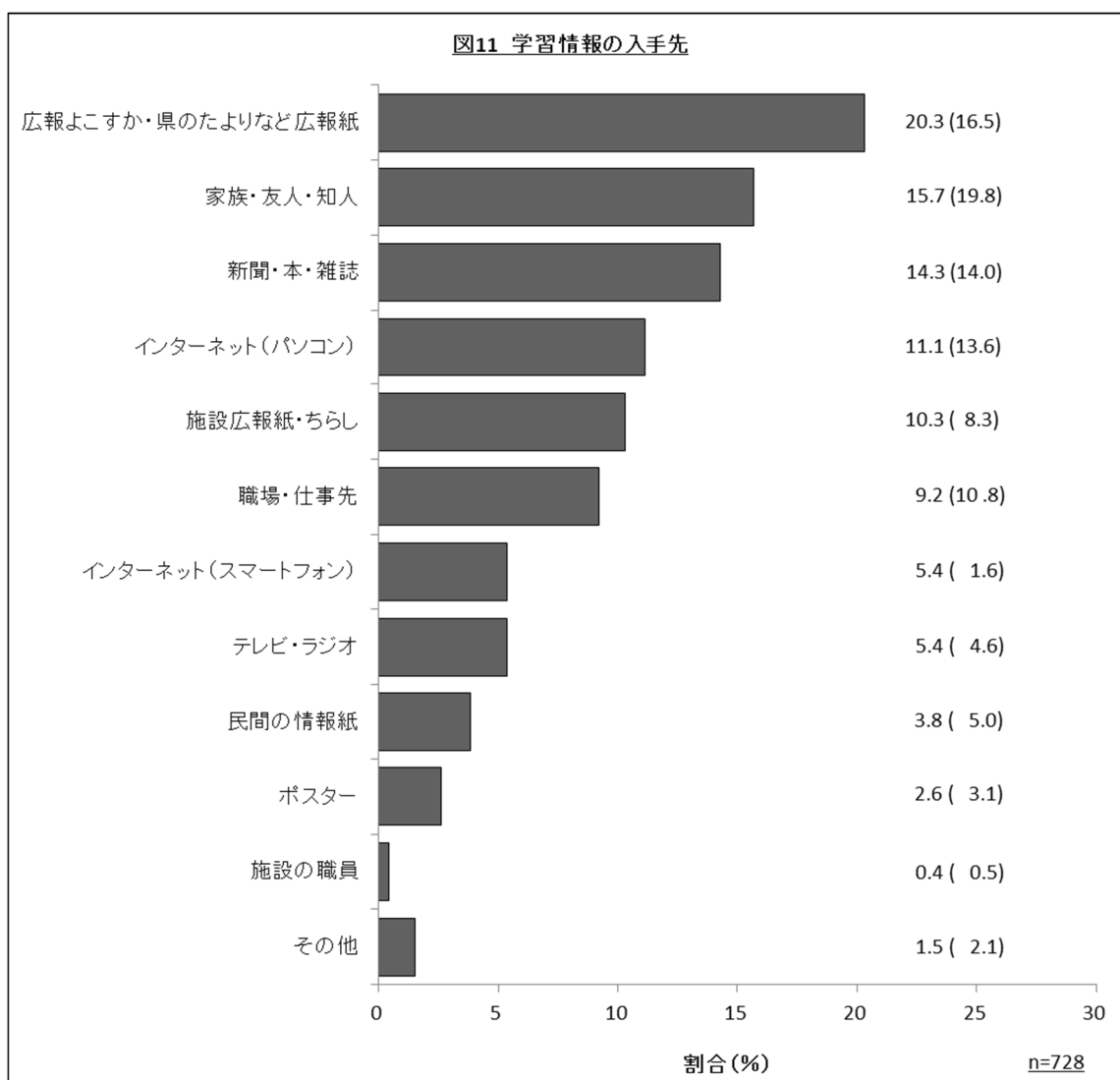
あなたがよく参加する講座などはどちらですか。（一つ選択）

- ※1 「国・都道府県・市町村の機関や施設が主催した講座などに参加した」
- 2 「民間団体などが主催した講座などに参加した」
- 3 「大学や各種学校等が主催した講座などに参加した」



問9で講座に参加したことがある方のうち、複数回の講座に参加されている方が52.4%と単発の講座への参加に比べて4.8%多かったが、概ね半々に分かれました。

問 11 あなたは、学習の情報をどこから入手しましたか。（三つまで選択）

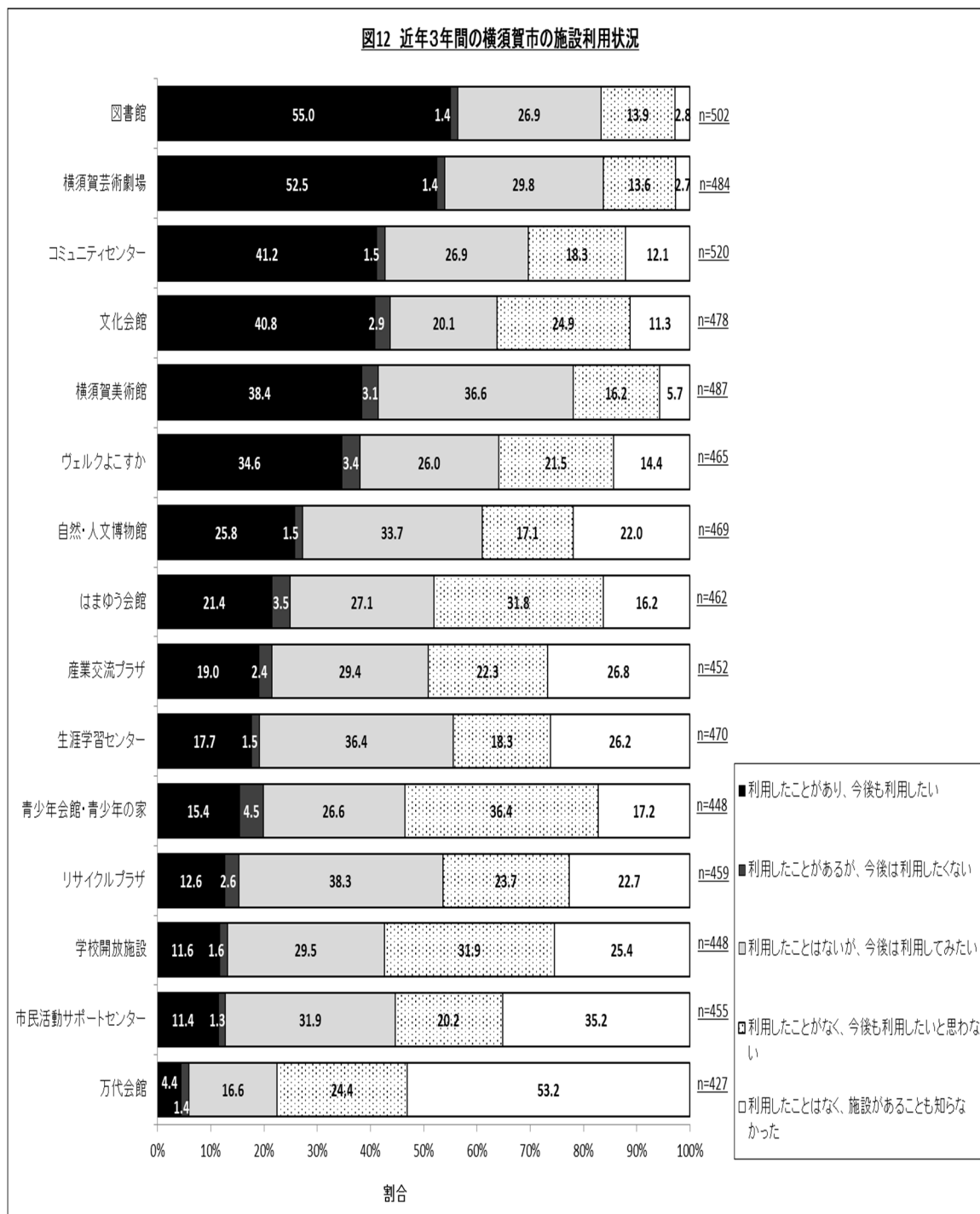


「広報よこすか・県のたよりなどの広報紙」の割合が最も高く 20.3%であり、「家族・友人・知人など」が 15.7%、「新聞・本・雑誌」が 14.3%と続きました。このうち、「広報よこすか・県のたよりなどの広報紙」は前回より 3.8%増加し、「家族・友人・知人など」は 4.1%減少しました。「インターネット（スマートフォン）」については、前回の割合は 1.6%でしたが今回は 5.9%と 3.8%増加しました。「インターネット（パソコン）」と「インターネット（スマートフォン）」の割合を合計すると 16.5%であったのに対して、「広報よこすか・県のたよりなどの広報紙」「生涯学習センター・コミュニティセンターなどの施設が発行する広報紙やちらし（グラフ上「施設広報紙・ちらし」と表示）」「新聞・本・雑誌」「ミニコミ紙など民間の情報紙」「ポスター」の割合は 51.3%であり、紙媒体で情報を得ている方の多さがうかがえました。

3 生涯学習施設

(1) 生涯学習施設の利用率

問 12 あなたはこの3年間の横須賀市の施設利用について、それぞれにお答えください。（それぞれ一つ選択）



「今後も利用したい」については「図書館」の割合が55.0%と最も高く、「横須賀芸術劇場」が52.5%、「コミュニティセンター」が41.2%と続いた一方、「万代会館」が4.4%と最も低かったです。図9、11からも分かるように、本や雑誌などから情報を入手したり学習する方が多いことが、図書館の利用率を高めていると考えられます。前回と比較すると、「横須賀芸術劇場」が5.3%減少し、「産業交流プラザ」が2.6%増加しました。

「利用したことがあるが、今後は利用したくない」については「青少年会館・青少年の家」が4.5%と最も高く、一方で「市民活動サポートセンター」が1.3%と最も低かったです。前回と比較すると、「ヴェルクよこすか」が1.4%増加し、「自然・人文博物館」は3.1%減少しました。

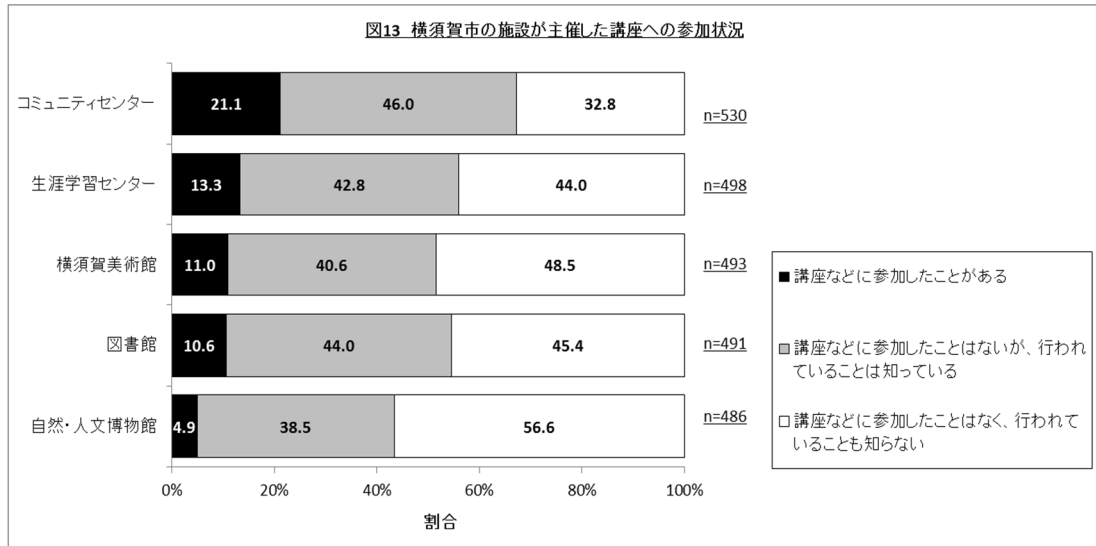
「利用したことはないが、今後は利用してみたい」については「リサイクルプラザ」が38.3%と最も高く、「万代会館」が16.6%と最も低かったです。前回と比較すると、「青少年会館・青少年の家」が6.4%増加し、「生涯学習センター」が4.2%増加しました。

「利用したことはなく、今後も利用したいと思わない」については「青少年会館・青少年の家」が最も高く36.4%と最も高く、「横須賀芸術劇場」が13.6%と最も低かったです。前回と比較すると、「文化会館」が5.6%増加し、「青少年会館・青少年の家」が1.5%減少しました。

「利用したことはなく、施設があることも知らなかった」については「万代会館」が53.2%と最も高く、「横須賀芸術劇場」が2.7%と最も低かったです。前回と比較すると、「自然・人文博物館」が3.2%増加し、万代会館は4.4%減少しました。

2) 生涯学習施設の実施事業の参加状況

問 13 この3年間の横須賀市が主催した講座などへの参加について、それぞれの施設についてお答えください。（それぞれ一つ選択）



横須賀市が主催した講座への参加について伺ったところ、「講座などに参加したことがある」については「コミュニティセンター」で21.1%と最も高く、「自然・人文博物館」で4.9%と最も低かったです。前回と比較すると「コミュニティセンター」と「生涯学習センター」でそれぞれ3.0%、3.2%と増加し、一方で「自然・人文博物館」で1.6%減少しました。

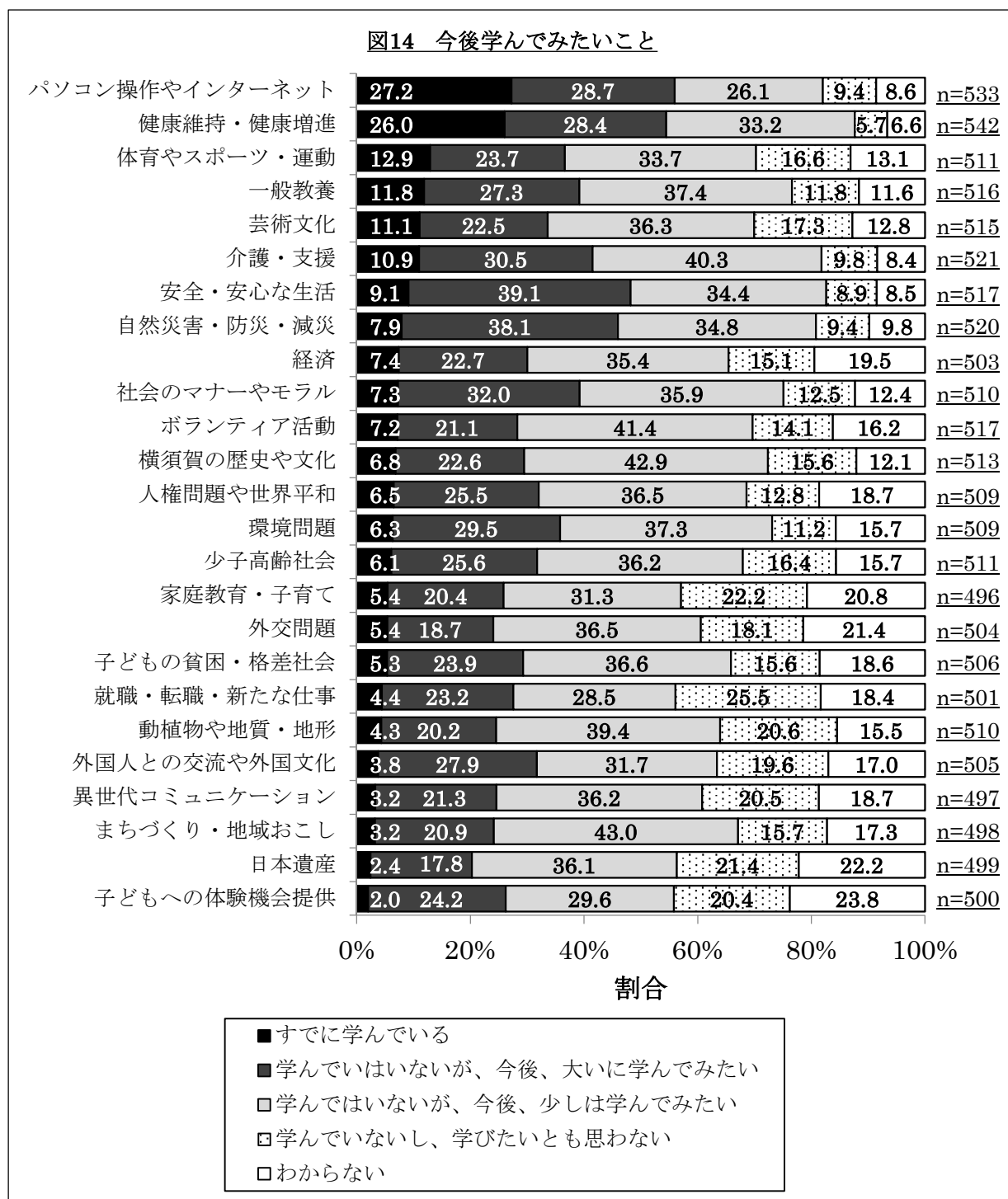
「講座などに参加したことはないが、行われていたことは知っている」は「コミュニティセンター」で最も高く46.0%、「自然・人文博物館」で最も低く38.5%でした。前回と比較すると「横須賀美術館」で1.3%増加し、「生涯学習センター」で3.0%減少しました。

「講座などに参加したことはなく、行われていることも知らない」は「自然・人文博物館」で56.6%と最も高く、「コミュニティセンター」で32.8%と最も低かったです。前回と比較すると、「自然・人文博物館」で1%増加し、「コミュニティセンター」で3.2%減少しました。

4 社会的な課題

(1) 社会的課題に対する市民の学習ニーズ

問 14 あなたは、今後、次のことを学んでみたいと思いますか。それぞれにお答えください。(それぞれ1つ選択)



「すでに学んでいる」については、「パソコン操作やインターネットに関すること（グラフ上「パソコン操作やインターネット」と表示）」で27.2%と最も高く、「健康維持・健康増進に関すること（グラフ上「健康維持・健康増進）」が26.0%と続きました。一方で、「子どもの様々な体験機会の提供に関すること（グラフ上「子どもへの体験機会提供）」は2.0%と最も低かったです。「学んではいないが、今後大いに学んでみたい」については「安全・安心な生活に必要なこと（グラフ上「安全・安心な生活）」で39.1%と最も高く、「日本遺産に関すること（グラフ上「日本遺産）」で17.8%と最も低かったです。「学んではいないが、今後少しは学んでみない」については「まちづくり・地域おこしに関すること（グラフ上「まちづくり・地域おこし）」で43.0%と最も高く、「パソコン操作やインターネットに関すること」で26.1%と最も低かったです。「わからない」については「子どもの様々な体験機会の提供に関すること」で23.8%と最も高く、「健康維持・健康増進に関すること」で6.6%と最も低かったです。

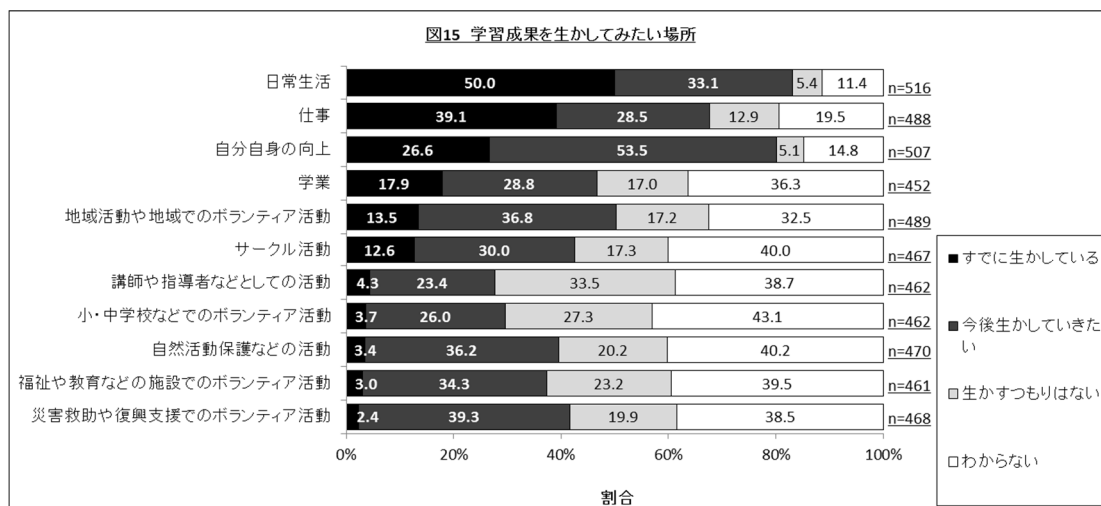
前回と項目が異なるため単純比較はできませんが、「すでに学んでいる」については「健康維持・健康増進に関すること」が前回に比べて3.9%増加し、「学んではいないが、今後、少しは学んでみたい」については「安全・安心な生活に必要なこと」で9.0%増加、「学んではいないし、学びたいとも思わない」については「安全・安心な生活に必要なこと」で4.0%増加、「わからない」では「自然環境保護やごみ問題などの環境問題や原子力発電などエネルギーに関すること（グラフ上「環境問題）」で3.2%増加しました。

図7、8でもみられたように、健康維持・健康増進への興味、関心が高いことがうかえました。「個人的に興味を持つ内容から学習活動を始めてもらい、同じような興味を持つ人が仲間をつくり、仲間となった人達が地域活動を行っていく」といった課題の達成に向けて、今後は「まちづくり・地域おこしに関すること」において「学んではいないが、今後、大いに学んでみたい」「学んではいないが、今後、少しは学んでみたい」と考えている方々に働きかける必要があると考えています。

5 今後の課題

(1) 学習成果の還元

問 15 あなたがこれまで経験や学習して身につけてきた知識や技能など（学習の成果）を生かすことについて、それぞれにお答えください。



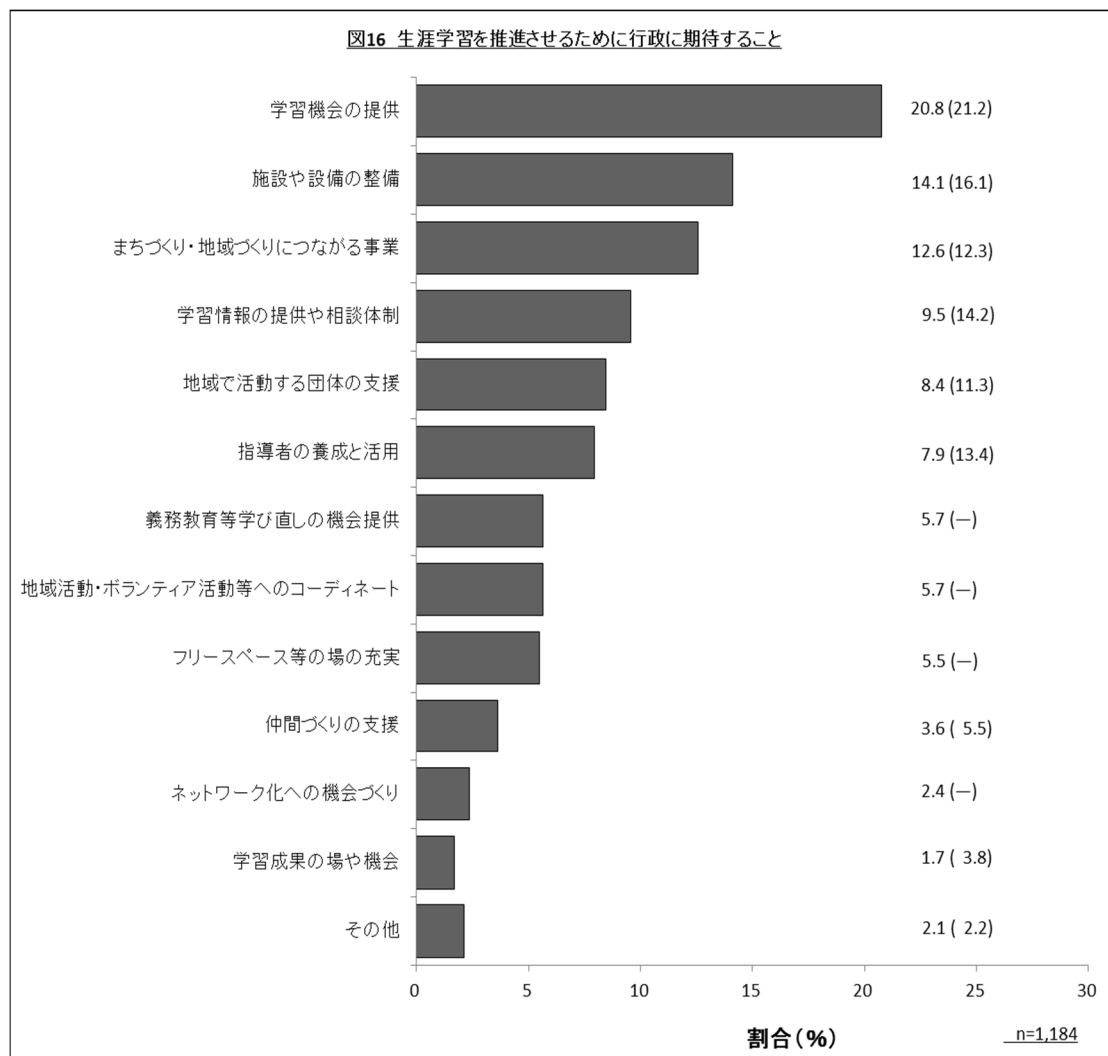
知識や技能の生かす場所としては、「日常生活」、「仕事」において、「すでに生かしている」の割合がそれぞれ 50.0%、39.1%と高かったです。「自分自身の向上」、「自治会・町内会活動などの地域活動や地域でのボランティア活動」、「災害救助や復興支援でのボランティア活動」において「今後生かしていきたい」がそれぞれ 53.5%、36.8%、39.3%と高かったです。「生かすつもりはない」を選択された方の割合が最も高い活動項目はありませんでしたが、他項目と比べると「講師や指導者などとしての活動」において 33.5%と高かったです。「サークル活動」、「講師や指導者などとしての活動」、「小・中学校などでのボランティア活動」、「自然活動保護団体などの活動」、「福祉や教育などの施設でのボランティア活動」では「わからない」の割合が最も高く、それぞれ 40.0%、38.7%、43.1%、40.2%、39.5%でした。その他の回答としては、「長く家庭にあった為どういう場があるのかわからない」「ネット世界」「異文化交流事業」「ご近所の不自由な方の手助けになればと、気が付いた時に手伝います。」「福祉」「自宅開業(スクール)インターネットレッスン」「②(仕事)を向上させ、⑧(福祉や教育などの施設でのボランティア活動)⑨(災害救助や復興支援でのボランティア活動)を活かしていきたい」といったご意見をいただきました。

上記の結果から、日常生活、仕事、自分自身の向上といった自分の成長に関する場所において、学んだ内容(図7参照)を生かしていることが多いことが分かりました。一方で、地域活動や地域でのボランティア活動、災害救助や復興支援でのボランティア活動において「今後、(学んだことを)生かしていきたい」と思われている方が多いにも関わらず実際に「すでに生かしている」を選ばれた方の割合が少ないことより、

身に付けた知識や技能などが活かされにくい状況であることが伺えます。今後は社会のつながりの中で、身に付けた学習の成果を生かせるような機会づくりの促進を図っていく必要があります。

（２）行政が充実すべき事業

問 16 あなたは、さらに生涯学習を推進させるために、行政に何を期待しますか。
（三つまで選択）



「講座・ワークショップなどの学習機会の提供（グラフ上「学習機会の提供」と表示）」の割合が 20.8%と最も高く、「学習活動を行う施設や設備の整備（グラフ上「施設や整備の活動）」と「まちづくり・地域づくりにつながる事業」が 14.1%、12.6%と続きました。中でも「まちづくり・地域づくりにつながる事業」は前回に比べて 0.3%高かったです。「生涯学習を支援する指導者の養成と活用（グラフ上「指導者の養成と活用）」は前回に比べて 5.5%と低いことが分かりました。

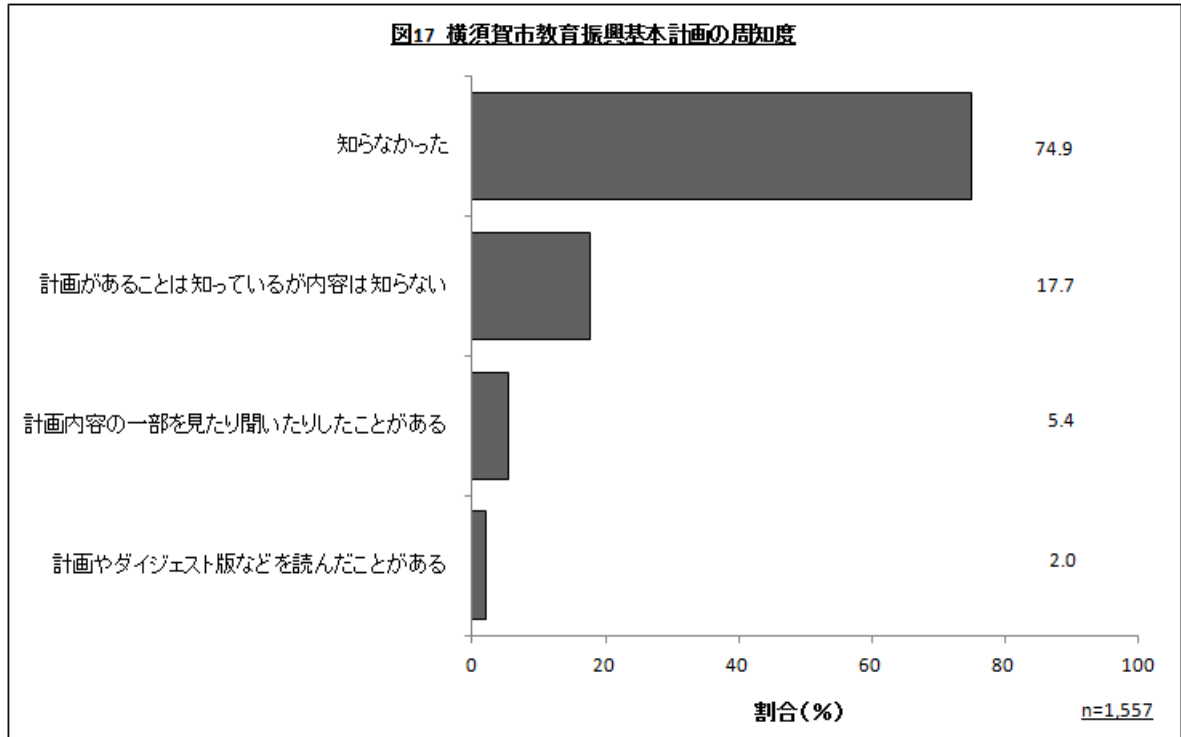
これまでの回答では自身の趣味や健康維持・健康増進への興味が高く、社会的なつながりへの関心は低い傾向がみられましたが（問 7、8 参照）、社会的なつながりづくりを促進するような事業の展開を以前にも増して行政に期待していることが本結果よりうかがえました。今後の支援方法が課題です。

6 横須賀市教育振興基本計画について

※以下の回答数は「平成 28 年度横須賀市教育アンケート」のうち社会教育編、学校教育編、スポーツ編の合計値です。

(1) 横須賀市教育振興基本計画の周知度

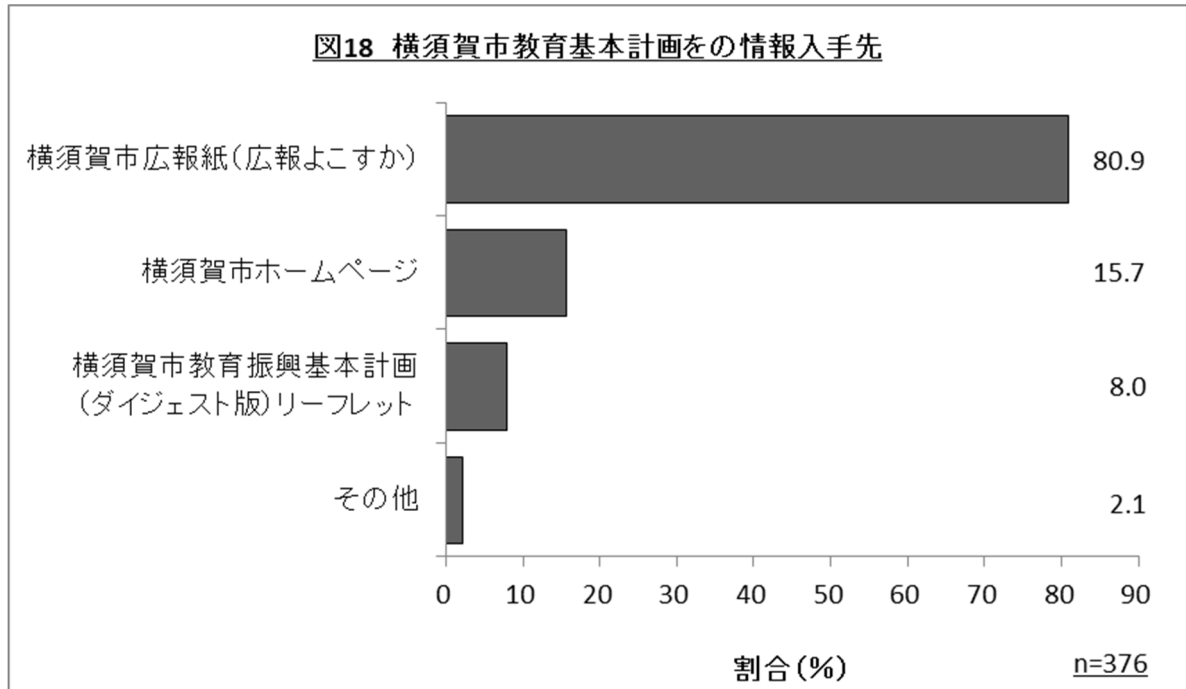
問 17 横須賀市教育振興基本計画（平成 23 年 3 月策定）を知っていますか。



「知らなかった」の割合が 74.9%と最も高く、項目の順位は前回の社会教育編における結果と変わりませんでした。今後も周知方法を検討していく必要があります。

（２）横須賀市教育振興基本計画の情報入手先

問 18 横須賀市教育振興基本計画を何で知りましたか。（複数回答可）



問 17 で「計画があることは知っているが内容は知らない」「計画内容の一部を見たり聞いたりしたことがある」「計画やダイジェスト版などを読んだことがある」を回答した全体の 25.1%のうち、「横須賀市広報紙（広報よこすか）」によって知った方は 80.9%と最も高く、同様の傾向は前回調査でもみられました。今後も広報よこすかやホームページを活用し、「知らなかった」方への働きかけをしていく必要があります。

7 自由意見

自由意見では、大きく分けて（１）講座の内容、運営に関すること（２）学ぶ場所の提供、施設の整備（３）周知方法（４）つながりづくり（５）その他に関するご意見をいただきました。以下にそれぞれの代表的な意見の要点を示します。

（１）講座の内容、運営に関すること

① 講座の開催方法について

- ・社会人がサービスを受けやすい時間帯での講座開催を希望する。（30 歳代）
- ・インターネットを活用することでいつでも講座を受けられる体制を希望する。
（30 歳代、50 歳代、60 歳代）
- ・仕事との兼ね合いで参加できないことがあるため、同講座の複数開催を希望する。
（50 歳代）

② 子どもを連れた講座への参加について

- ・託児所やベビーシッターサービスのある講座の拡充を希望する。親子で参加可能であると嬉しい。
（20 歳代、30 歳代）
- ・講座と同室にキッズスペースが必要。子どもがいることによって講座への参加をためらうことがある。
（30 歳代）
- ・子どもを連れて積極的に参加できる体験学習等の拡充を希望する。子どもたちが郷土へ誇りを持てるような学習があればと思う。
（40 歳代）

③ 講座内容について

- ・高齢者を対象とする講座だけではなく幅広い年齢層に教育・訓練の機会を提供して欲しい。
（20 歳代、70 歳代）
- ・語学や文化交流を学べる講座の拡充を希望する。
（40 歳代、50 歳代、70 歳代）
- ・「教える」ことにつながる学びの機会を提供してほしい。
（50 歳代）
- ・気軽に学べるものが少ない。
（60 歳代）
- ・系統立った学習よりも出会いの中で啓発されることが多く、そのような機会の提供を希望する。
（70 歳代）

（２）学ぶ場所の提供、施設の整備

① 図書館について

- ・図書館数を増やす。
（30 歳代）
- ・開館日数を増やす。
（30 歳代）
- ・図書館の機能向上。例えば、蔵書数の増加、開館時間の延長、返納・受け取り場所の拡大。
（30 歳代、70 歳代）
- ・児童図書館の拡充。
（50 歳代）

② 学校施設の開放

- ・住民が通いやすい場所に学ぶ場所があってほしい。廃校となった学校の活用を希望する。 (30 歳代)
- ・空き教室や図書館を勉強会の場所として開放してほしい。 (40 歳代)

③ 学ぶ場所の地域差

- ・他都市から引っ越してきたが、横須賀は学習施設に恵まれた地域であると感じる。 (30 歳代)
- ・横須賀の中心部に比べて交通サービスの少ない地域では開催する場所まで行くことが困難であり、参加を諦めることがある。地域によって学ぶ機会には大きな格差があると感じる。 (40 歳代、60 歳代、70 歳代)
- ・開催場所や気軽さが横須賀には少ない。 (70 歳代)

④ 町内会館・自治会館の活用

- ・町内会館・自治会館など気楽に赴ける場所での開催を希望する。 (60 歳代、70 歳代)
- ・(無理して遠出するよりも、) 近くに気楽に集まれる場所があると嬉しい。 (70 歳代)

(3) 周知方法

- ・広報不足である。 (30 歳代)
- ・講座を受けた人の体験談や感想等も教えてほしい。 (30 歳代)
- ・サービスを利用できる人と利用できない人の差が大きい。周知方法の工夫が必要である。 (40 歳代)
- ・学べる機会に関する情報を統括して発信する部署が必要。 (50 歳代)
- ・広報よこすかが届いていない。 (60 歳代、70 歳代)

(4) つながりづくり

- ・講座への参加によって仲間ができ、学習内容への理解が深まりとても楽しい。得られた知識や技能は自治会の活動の中で役立てたい。 (60 歳代)
- ・講座への参加をきっかけに自発的なサークル活動へと発展した。今でも楽しく活動を続けている。 (70 歳代)

(5) その他

- ・生涯学習は大人のみを対象とするのではなく、小・中学生から啓発する必要がある。 (20 歳代)
- ・今の時代、ネットで簡単に知りたい情報を得ることができるため、講座等に参加しようとは思わない。魅力を感じない。 (20 歳代)
- ・民間ではなく行政だからこそできる生涯学習の推進を期待する。 (40 歳代)

- ・行政主体の講座だけでなく、民間企業のカルチャーセンターとも連携して活気あるまちづくりをしてもらいたい。（50歳代）
- ・「学びたくない」人をいかに学習につなげていくかが今後の課題であると感じる。（50歳代）
- ・PTA活動が自分にとっては学ぶ場所として有意義であった。（60歳代）
- ・障がいを持つ方の生涯学習も考慮してもらいたい。（60歳代）
- ・生涯学習の推進が日本の将来を良くする。（70歳代）
- ・博物館等での解説ボランティアの拡充を希望する。（70歳代）
- ・講座等に参加することで新鮮な知識に触れ、内容への理解も深まり、楽しく前向きな気分になる。（70歳代）

「今の時代、ネットで簡単に知りたい情報を得ることができるため、講座等に参加しようとは思わない。魅力を感じない。（20歳代）」という意見や問9、問11の結果からも明らかになったように、近年はインターネットの利便化が進んだことにより欲しい情報を簡単に得られるため、生涯学習においても“DIY化”が進んでいると考えられました。一方で、問7、8より自身の趣味や健康維持・健康増進への興味が高く社会的なつながりへの関心は低い傾向がみえた中、問16では社会的なつながりづくりを促進するような事業展開を以前にも増して行政に期待していることがうかがえました。自由意見においても「講座への参加をきっかけに自発的なサークル活動へと発展した。今でも楽しく活動を続けている。（70歳代）」「講座への参加によって仲間ができ、学習内容への理解が深まるととても楽しい。得られた知識や技能は自治会の活動の中で役立てたい。（60歳代）」といったように、行政等の働きかけ（例えば、講座の企画、開催等）によってその後の仲間づくり、まちづくりへと発展した例が垣間見えました。今後は多種多様な生活スタイルを考慮した上で、「個人的に興味を持つ内容から学習活動を始めてもらい、同じような興味を持つ人が仲間をつくり、仲間となった人達が地域活動を行っていく」といった生涯学習・社会教育における目標につながるよう、推進を図っていく必要があります。

横須賀市教育アンケート報告書（社会教育編）

平成 29 年（2017 年）3 月発行

編集発行 横須賀市教育委員会事務局
教育総務部生涯学習課
〒238-8550 横須賀市小川町 11 番地
電話 046-822-8483（直通）
FAX 046-822-6849
E-mail se-bes@city.yokosuka.kanagawa.jp



YOKOSUKA CITY
SINCE 1907



横須賀が大好き!